

図書館だより

令和7年10月1日発行

10月号

10月



郡山第五中学校 図書委員会
1-2 1-3
学校司書 渡邊 恵美

10月のテーマ

神代の昔に 思いをはせて



日本には、八百万神と言われるようにさまざまな神様の話があります。その代表的なものが「古事記」です。有名な「いなばのしろうさぎ」や「やまたのおろち」もその中の話で、人間のように感情豊かな神様の姿が描かれています。

実りの秋に感謝



実りの秋に感謝して日本の各地で催される秋祭り。掛け声も勇ましくお神輿を担いだり、山車を引いたりとその土地土地の伝統が息づいています。大切な伝統文化を受け継ぎ、地域のつながりを守っていききたいものです。

秋の夜長を 本とともに



「秋の日はつるべおとし」。つるべというのは、井戸で水を汲むための綱を付けた桶などのこと。日が暮れるのがつるべを落とすように早く感じる秋は、夜が長いということでしょう。虫の声を聞きながら読書を楽しむのにぴったりです。

燈火親しむ季節に



読書週間のある10月は、たくさんの本に親しみたい季節ですね。秋の夜長を長編小説で過ごすのも、読めずに積んでいた小説に挑戦するのもよいですね。図書館の本たちも、手にとってもらうことを待っています。

芸術の秋 読書感想画にチャレンジ!



読書の感動を絵画で表現しませんか? 読書感想文と違って、文章を書くのはちょっと苦手というあなたも、本から得た感動や印象、思考の深まりを一枚の絵にしてみましょう。自分なりのイメージを広げて描きましょう。

スポーツの 秋です



爽やかな秋の気候は、運動するのにぴったりで各地で運動イベントが開かれます。図書館には運動に関する本もあります。スポーツに親しむとともに、憧れの選手の伝記や興味のあるスポーツの本にも手を伸ばしましょう。

図書委員会では10月17日(金)に行われる桜木祭のしおり・プログラム作成、図書委員全員のおすすめ本のPOP作成・展示の準備を進めています。

POPは桜木祭当日に体育館の壁面に展示しますので、ぜひご覧ください。気になる本を見つけたら図書室で借りて読んでみてください。

図書委員おすすめの本



おすすめです!

1-2



ラストで君は「まさか!」と言う
PHP研究所

ラストで君は「まさか!」と言うこの本は、その名の通りこの本の物語のラストには、思っていたのとは違う「まさか!」な展開が待っています。一つ一つの物語は3分ほどで読み終わってしまうものの、一冊を通して見ると満足感のある作品です。シリーズもたくさんあるのでぜひ読んで欲しいです。「3分に1度あなたは騙される!」この通りの作品に、皆さんも不思議な物語の世界に浸ってみてはどうでしょうか。

1-3



ドンキはみんなが好き勝手に働いたら
2兆円企業になりました
日経BP

この本は誰もが知ってるドンキホーテがなぜこんな大企業になったかのお話です。他にもなぜこんな商品が生まれたかとか経済についても学べるので、ぜひ読んでみてください。

先生のおすすめの本

須藤佑樹先生



『論語物語』 下村湖人

『論語』とは、およそ2500年前、孔子という中国の思想家の教えをまとめたものです。はるか昔の中国で広まった教えですから、当然漢文で書かれています。

さて、ここまで聞くと、非常に難しく、つまらないものだと思います。私自身、大学生のとき授業で読むまではそう思っていました。しかし、決してつまらない、古臭いお説教だけが書かれているわけではありません。そこには、孔子やその弟子たちの生き生きとした姿や言葉が描かれているのです。

そんな論語を物語として読めるのが、この『論語物語』です。今を生きる我々にも共感できる内容が書かれていますから、あなただけの「お気に入り」を探してみてください。そして、ぜひ『論語』も読んでみてください。

(現代語で書かれています。漢文が苦手な人も安心してください)

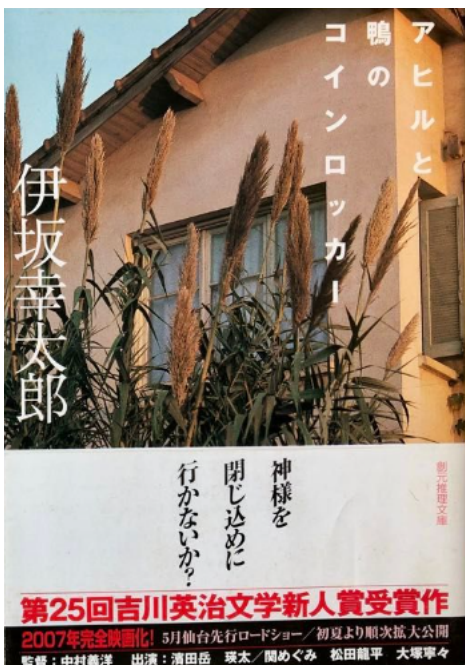
ぜひ読んでみて
by先生



山川晃広先生

アヒルと鴨のコインロッカー

伊坂幸太郎



物語は、引っ越してきたばかりの大学生・椎名が、隣に住む奇妙な男・河崎と出会うところから始まります。彼は、いきなり「本屋を襲撃するから協力してほしい」と持ちかけてきます。しかも、その目的は「広辞苑」を盗むこと…。

本の舞台が仙台ということもあり、身近に感じて手に取ったことが読んだきっかけです。バラバラに見える出来事や人物の関係性が、最後の最後に「ああ、そういうことだったのか!」とパズルのようきれいに1つにつながります。

読書は、正直苦手でしたが、読むとあっという間でした。そんな人たちにもおすすめの作品です。